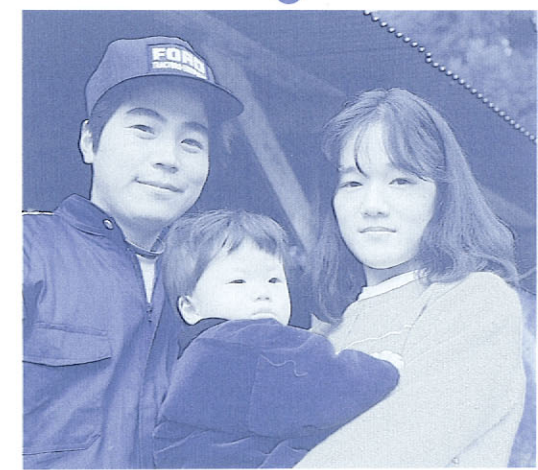


# 私は、明い、農業経営者。

『サラダ記念日』が短歌のイメージを変えたように、農業のイメージチェンジと明るく農業を語ることが出来る環境づくり、農村づくりをしたい。『明日の熊本農業への私の提案』をテーマとした県民提案で知事賞を受けた市原正さん(32)の提案はこのような書き出しで始まります。

市原さんは一の宮町坂梨で二十三頭の繁殖牛を飼う畜産農家。牧草の他に二・三ヘクタールの米も作っています。

「私の仕事は農業。農業ってホント楽しいですよ。私は自分のことを農業従事者ではなく経営者だと思っています。『農業は厳しい』とよく聞くけど経営者というからには厳しい面があるのは当たり前。それより面白味や喜びの方がずっと大きいですね。なのに『農業』暗い』でしょ、なんとかイメージチェンジできないものかと自分なりにやってみました。名刺もその一つ、十年程前



から持っています。」  
市原さんの提案は、  
一、農業関係者以外の講師を招いての農村カレッジの開催

一、新聞等での明るい農業、明るい農村の紹介  
二、企業経営者としての自覚を高めるための、名刺づくりの普及

一、「厳しい、暗い、きつい」の廃止運動  
二、女性と出会うチャンスを作るため、女性の多い企業での農村青年の季節実習制度の開設  
一、野良着のファッション化  
など、明るい活力と潤いのある農村づくりへの具体的方策が一杯です。

「自分が常々考えてきたことをまとめただけ、それが知事賞だなんて——内心大変なことになった」とまどっています。でも、

県民提案知事賞受賞  
一の宮町 畜産農家 市原正さん

認めてもらえたのはとても嬉しい。これからの農業は、知恵比べ。自分なりの農業を創っていかねければダメですね。そして楽しく農業やりたいですね。」  
お父さんと二人で作ったという牛舎で牛の世話をしながら語る市原さんに子牛が寄り寄ってきます。

「農家の嫁不足という言葉があるけど、そんなこと関係ないんじゃないかしら。全て本人次第。彼は会った時から光っていました。大牟田の勤め人の家に育った私ですが、ためらいはなかったですね。一緒になって、農業っていいなと思うようになりました。」という妻祥子さん(26)の幸せそうな笑顔がとても印象的でした。



設備投資を、いかに押えるかがカギ。  
この牛舎は、廃材を利用した手づくりです。

